

## 庁内広報

令和4年9月2日

発行:総務部総務課

4-8号

# 未来を見据えた躍動の年

「活力と彩りの創造」「未来に輝くひとづくり」「穏やかで美しい日常の実現」

9月2日の予算編成方針会議において、令和5年度の予算編成にあたり今井市長から訓示がありました。

■令和5年度は、第5次岡谷市総合計画前期基本計画の総仕上げとして、基本目標の達成に向けた取組を着実に進めるとともに、後期基本計画の5年間を見据えた効果的な取組に積極的に投資することで、将来都市像の実現に向け、加速度を上げて前進していかなくてはならない。

■感染症に対しては、先行きが不透明な状況が続いており、市民生活や経済活動など多方面に影響を及ぼしている。加えて、ウクライナ情勢等に伴う原油価格・物価高騰が続く中、市民の日常生活を守るとともに、企業活動を支える取組を切れ目なく講じていかなければならない。

■感染症の影響が長期化するなかで、人の流れや意識・行動に大きな変化が生じており、地方移住に対する関心が高まっていることから、本市の特長・個性を最大限に活かすとともに、多くの人に選ばれるまちづくりを力強く推進する必要がある。

■行政の果たすべき仕事・役割が増大するなかで、これまでの業務内容や実施方法を一から検証し、最新のITツールを活用したDXの推進など、時代の変化に的確かつスピード感をもって対応していかなくてはならない。

■地球温暖化による「気候危機」が安全で安心な生活を脅かしていることから、自然災害への備えを強化することとあわせ、二酸化炭素排出量の削減など地球温暖化対策を官民一体となって進めていく必要がある。

■人口減少が続く状況にある中、特に20代及び30代の女性の転出超過が顕著であることから、女性の活躍推進のほか、多くの女性、若者に選ばれるまちづくりを展開することとする。

■こうしたことから令和5年度は「未来を見据えた躍動の年」と位置づけ、ウィズコロナ、ポストコロナの時代に的確に対応しながら持続的な成長曲線を描き、誰もが安心して夢と希望をもって暮らすことができるまち、いつまでも住み続けたい、住んでみたい、と思える魅力あるまちづくりを推進する。満足度の高い岡谷市をつくり上げるため「活力と彩りの創造」、「未来に輝くひとづくり」「穏やかで美しい日常の実現」を重点施策として取り組むこととする。

■たゆまぬ行財政改革に取り組む必要がある一方で、5年間の歩みを成果として結びつけ、後期基本計画へ着実に繋ぐ重要な一年でもあることから、義務的経費・投資的経費・臨時的経費

を除いた全ての経費について、一般財源ベースで令和4年度当初予算額の範囲内、ゼロシーリングとし、全ての経費を一括で見積ることとする。なお、特に注力して取り組まなければならない「移住・定住の促進」及び「ゼロカーボンシティの推進」など、喫緊の政策課題に対する施策に関しては、ゼロシーリングの対象外経費とするので、積極的な検討をお願いしたい。

■部課長には、現状の職員体制等も十分考慮した上で、新たな取り組みにチャレンジする職員の意欲を最大限引き出し、リーダーシップをとって取り組まれるようお願いをする。また、職員には、将来の岡谷市に夢と希望を描き、職員としての志を高く持つとともに、まちづくりに対する意欲、活力を存分に発揮しながら、自分自身がやりがいを感じられる仕事ができるよう、積極性を持って予算編成に取り組んでいただきたい。

■事業の廃止・休止・再構築などを進めることは、多かれ少なかれ、市民生活にも影響を及ぼすことになる。岡谷市の現状と課題について、市民の皆様と十分に対話を深め、全庁、全職員を挙げて説明責任を果たしながら、令和5年度予算編成に取り組むようお願いをする。

## 市長訓示を受け、小口副市長から3つの指示がありました。

### 1. 岡谷市が取り組むべき喫緊の課題について

令和5年度に特に注力して取り組む事業の1つめが「移住・定住の促進」である。時に、“独創的なアイデア”や“斬新な発想”を必要とするため、皆さんの考え出す施策に期待している。次に、「ゼロカーボンシティの推進」であるが、本市としても「2050年 岡谷市ゼロカーボンシティ宣言」を発出した。大変な道のりであるが、官民一体となって取り組んでいく必要がある。職員には前向きに、そして積極的に予算編成に取り組んでいただきたい。

### 2. 5総前期基本計画の最終年に何をするべきか

令和5年度の予算編成に当たっては、ゼロシーリングでの予算見積もりを行うこととなった。行財政改革に取り組んできた成果であり、職員の努力に感謝を申し上げる。しかし、長期的には財源不足が見込まれるため、財政改革に引き続き取り組む必要がある。その一方で、令和5年度は第5次岡谷市総合計画前期基本計画の最終年であるので、明るく前向きな気持ちで、このまちの将来に夢を描き、その実現のために何をするべきか議論を積み重ね、組織力を発揮して、積極果敢に予算編成に取り組んでいただきたい。

### 3. 時代の流れに取り残されないように

絶えず変化する情勢に乗り遅れないよう、様々な情報収集に努め、予算編成や事務事業の執行などに活かしてほしい。国や県の政策、制度の動向には特に注視し、常に先を見据えてほしい。また、国等の交付金や補助制度など、積極的にその活用を図り、特定財源を確保するよう努力をお願いしたい。市民の声にしっかりと耳を傾け、新規政策の立案や事務事業の見直しのヒントにしてほしい。職員には、一丸となって取り組むべき“最善の一手”を模索するようお願いする。特に、若い世代の柔軟な発想を大切にすべきであると考えているので、部課長には、そういったアイデアが生まれやすく、また、育みやすい職場環境をつくっていただきたい。